

—施設内食堂利用者と自室自炊者の比較—

○加藤佐千子* 貴田康乃**

(*京都ノートルダム女大 **佛教大)

《目的》食の保障が約束された介護付き終身利用型有料施設居住の健康な高齢者を対象とし、高齢者が抱く食に対する要求や価値観を把握することによって高齢者の食生活の質を向上させ、生活を質的に高める要因を探ることを目的に実態調査を行った。

《方法》調査対象：関西地区における、介護付き終身利用型有料施設居住の高齢者、3施設合計 382名(男 107名、女 275名)。調査期間：平成 11年 8月～10月。方法：調査用紙を施設内戸別配布、質問紙留置法、回収率 74.2%。調査内容：食物摂取頻度、食態度、食品購入方法、食品購入時の考え、食費、食生活観、健康観、生きる力など生活意識に関する質問。分析：食方法（施設内食堂利用者と施設内自室自炊者）、性、年齢(①74歳未満、②75～79歳、③80～84歳、④85歳以上)と他の質問とのクロス集計を行い、 χ^2 検定で有意差をみた。

《結果》食方法、性及び年齢の、どの変数とも関連があるのは、食費、食品の購入方法と「自分一人で生きる力を持っているか」という項目である。食方法は 14種類の食品群でその摂取頻度と関連があり、パンや乳・乳製品の摂取頻度とは関連がない。性はごはん、緑黄食野菜、油脂類の摂取頻度と関連がある。年齢は食態度の一項目と関連がある。食堂利用者も自炊者も性と関連があるのは緑黄色野菜の摂取頻度で、年齢と関連があるのは食品の購入方法である。自炊者の中では、性と食事作りの方法とで関連があり、年齢と食品の購入方法及び「自分一人で生きる力を持っているか」とで関連がある。